

みやのうらじょうがひらじょうあと
49 宮之浦城ヶ平城跡

指 定 昭和 63 年 4 月 26 日 屋久島町指定記念物（史跡）
所在地 屋久島町宮之浦

□ 歴史

中世の屋久島は、大陸へとつながる海上交通の南島拠点として、役割を持っていた。

室町時代後期、全国が戦国動乱期に入ると、屋久島では種子島領主の種子島氏と大隅半島南部の禰寝氏との間で屋久島をめぐる合戦が行われています。

天文 11 年（1543）に起きた両者の戦いで敗れた種子島氏は、当時統治していた屋久島を禰寝氏に割譲しました。ここ城ヶ平城は、屋久島を手に入れた禰寝氏が、種子島からの攻撃に備えた山城でした。しかし、翌年屋久島奪還を企てた種子島氏からの攻撃を受けると、禰寝氏はただちに城ヶ平城から敗走し、永田城へ逃れました。その後、両者の争いが終結する 1573 年には、役目を終え廃城になっていたと考えられます。

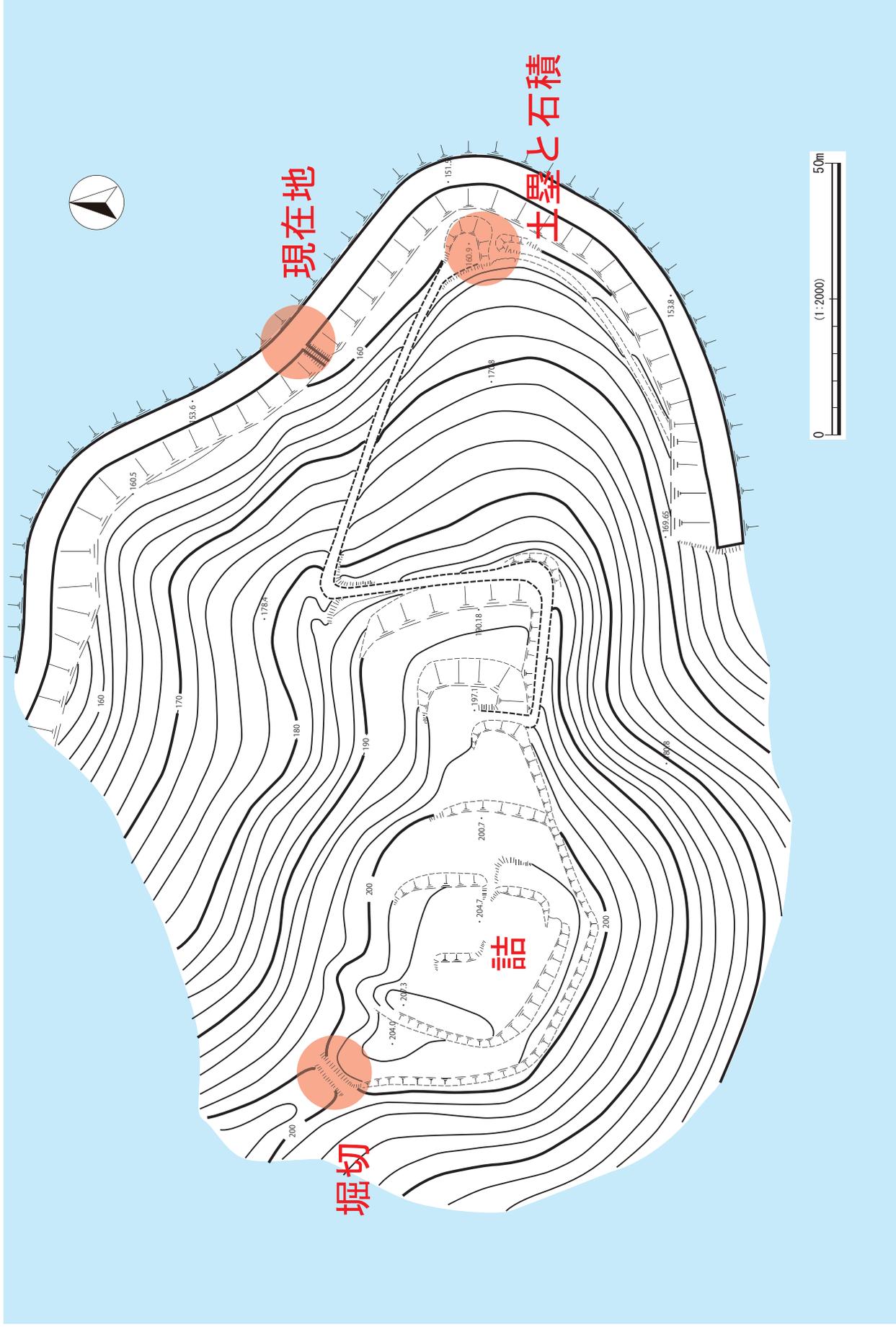
□ 構造

宮之浦城ヶ平城は鉾折岳東の丘陵上に築かれた連郭式の山城です。山城としての遺構は上部と下部の二カ所にあります。

上部は、頂上とその周辺五つの平坦な面（曲輪）を主として構成されています。東側には、尾根伝いからの侵入防ぐため、長さ 10m の範囲を 1～3 m の深さで掘り下げ（堀切）られています。

下面は、この城の大手口であり、土を盛った壁（土塁）、石積が見られません。

このように随所に山城としての遺構が認められますが、上部と下部の間約 100m の範囲に痕跡がないなど不十分であり、築城途中の山城であったと考えられています。



宮之浦城ヶ平城跡地形図